

単元名

ふるさと江田島の良さを継承するための方法を提案しよう。



#海浜清掃 #プラスチックゴミ #SUP #カメラ #英語 #地球環境問題

単元の概要

江田島長浜海岸での海浜清掃、海洋体験を通して、江田島の魅力の一つである「海の豊かさ」を実感することが学習のスタートである。同時に海浜清掃で砂浜に漂着したごみを観察し、江田島の特徴ある産業が海ごみを生み出すことに気づかせたい。海浜清掃、海洋体験で発見した課題とその課題を解決する方法を社会科、理科、外国語科で発見し、英語で提案する活動を外国語科で行う。これらの活動を通して、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成し、社会に参画しようとする態度を育てる。

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

○ふるさと江田島の良さを100年先も継承していくためにはどのような方法があるだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

○江田島の課題を発見し、それを解決するために自分達には何ができるだろうか。

【単元の目標】

○環境問題の改善のために私たちにできることは何かを提案する。

活動の様子（全19時間）

【情報収集（2時間）】

○江田島の魅力はどんなものがあるか想起させ、自然の豊かさ、産業の特徴、観光業についてなど整理させる。

○江田島の海ではどんな産業がさかんか整理する。

○社会科：SDGsに関連する授業を行い、地球環境問題と江田島を関連付けて考えさせる。

【課題設定（2時間）】

○江田島の海ではどんな産業が盛んであるか整理し、海浜清掃と海洋体験を計画する。

○江田島の海岸にはどのようなゴミが漂着しているか予想させる。

○理科：自然環境の開発と保全のバランスを自分のこととして考えさせ、プラスチックなどが海洋に与える影響を知る。



長浜海浜清掃の様子

○外国語科:プラスチックゴミを題材にしている教材を生かし、海の豊かさを
守る方法について知る。

【情報の収集・整理・分析(3時間)】

○外国語科:プラスチックゴミを題材にしている教材から、海洋汚染や課題
解決について様々な人の意見を知り、整理する。

○外国語科:自分の意見を英語で表現する方法を学ぶ。

【実行(7時間)】

○長浜海岸で広島県立大柿高等学校生徒会、カヌー部と海浜清掃を行い、
江田島の海特有のゴミがあることに気づかせる。

○大柿高等学校カヌー部、長浜カヌークラブの方々からカヌーとSUPを学び、
江田島の海の魅力は重要な観光資源として活用されていることに気づかせ
る。

○外国語科:活動の中で発見した課題と魅力を整理し、自然環境を保護する
方法や改善する方法を資料から見つけ、自分にできそうなものを発見する。

○社会科:SDGsの一つの問題として考え、江田島の課題は多くの地域・国
が抱える課題であることを認識させ、課題解決の方法を考え、まとめる。

○理科:海浜清掃で拾ったゴミがマイクロプラスチックとして地球環境に与えている影響について学ぶ際の
教材として見せる。この時、地域の人や漁業に携わる人が海浜清掃をしていることに触れるよう留意する。

【まとめ・創造・表現・振り返り(5時間)】

○外国語科:江田島の海がもつ課題と課題解決の方法を提案し、英語で表現し合う。

○社会科:SDGsをテーマに課題、課題解決方法をまとめ、提案する。



海洋体験の様子



外国語科での活動の様子

児童生徒の変容

○生徒にとって江田島の海は身近であるため、海洋体験前は江田島の海が重要な観光資源であることや
市外の人々から注目されていることに対して実感がない様子であった。しかし、海洋体験をすることで安全
に楽しく海で遊べるのは、これまで多くの人々の努力や工夫によって培われ、支えられていることに気づ
き、今後も江田島の自然環境を守っていきたいと感じることができた。

○江田島の海岸にゴミが漂着していることは認識していたが、実際に多いのはどのようなゴミか見たことが
ない、意識していない生徒が多かった。海浜清掃をする中で筒状のプラスチックゴミやナイロン製の紐、
牡蠣殻が多いことに気づき、江田島の重要産業である漁業に関するゴミが多いことに気づいた。自然を
守ることと産業を活性化させることを両立させることの難しさを再認識し、江田島で暮らす一人として考
え続けなければならないものだと思感できた。

連携機関・団体・人物

【海浜清掃】広島県立大柿高等学校生徒会・カヌー部のみなさん

【海洋体験】広島県立大柿高等学校カヌー部のみなさん、長浜海
岸カヌークラブのみなさん



広島県立大柿高等学校生徒会・カヌー部のみなさんとの集合写真

成果○と課題●

○長浜海岸清掃は江田島中学校の行事の一つであったが、どのようなゴミが多いか、どの程度あるかを
意識させることで、江田島特有の海洋ゴミ問題と環境保全の大切さを考えさせることができた。

○カリキュラムマネジメントを行い、社会科や理科、外国語科と連携することで様々な見方・考え方から江田
島の課題と魅力について考えることができた。

●まとめを各教科で行なったため、教科のもつ特性に偏ったものになった教科もあった。教科ごとのまとめ
と統一したまとめの両方を用意するべきであった。

単元名

「ふるさとの自然」作品コンクールに応募しよう



#海の生き物 #美術 #自然



単元の概要

「身近な自然」、「ふるさとの自然」についての興味・関心を高め、海辺の生き物をじっくり観察する力を育み、描画道具を効果的に使用して生き生きと表現した作品を「ふるさとの自然」作品コンクールに応募する。

【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

○対象物を細部まで正確に描写するためには、どのような工夫が必要だろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

○形・色・光等、身の回りの事象をじっくりと観察する力を養うためには、どのような工夫が必要だろうか。

【単元の目標】

○海辺の生き物の形態や特徴を細部までじっくり観察し、描画道具を効果的に使用して表現できる。

活動の様子（全7時間）

【情報収集（2時間）】

○さとうみ科学館より講師の方を招聘し、荒代海岸で海辺の生き物を採集する。

○講師の方から採集した生き物についての説明を受ける。



海辺の生き物を採集している様子

【課題設定（1時間）】

○自分が採集した海辺の生き物や説明を受けて興味をもった海辺の生き物について、タブレット等を使用して詳しく調べる。

○海辺の生き物を撮影した写真やインターネットで検索した画像を見て、特徴をじっくり観察する。

【情報の収集・整理・分析(1時間)】

- 生き物のアイデアスケッチを学習プリントに描く。
- 素材を正確に描写するための色鉛筆の描き方の工夫を考える。
- 枠線内のサイズに対する全体的な大きさのバランスを取る。
- 生き物の各部位の大きさ・長さ・比率をスケッチして確認する。



採集したウミサボテンの一種

【実行(1時間)】

- 応募用紙にアイデアスケッチを参考にしながら下書きをしていく。
- アイデアスケッチで考え工夫した表現方法で、色鉛筆等の描画道具を使用して細かく描写していく。

【まとめ・創造・表現(1時間)】

- 他の生徒の作品を鑑賞し、よいところや美しいところをグループ活動で交流する。
- グループ活動で交流した内容は学級全体で共有する。
- 「身近な自然」、「ふるさとの自然」についてどのように興味・関心をもったか発表する。

【振り返り(1時間)】

- 「身近な自然」、「ふるさとの自然」についてどのように興味・関心をもったか文章化する。

児童生徒の変容

- 写真の模写では得られない形態や特徴を捉えることを目指し、講師の方の指導の下、実物の海辺の生き物に触れる機会を設けた。その結果、時間をかけて観察し生き生きとした描画表現を試行錯誤しながら工夫する姿が見られた。
- 海辺の生物の形・色・質感について興味・関心が高まった。
- 振り返りの文章で「もっと色々なものを見てみたい。」「気づいていないことが意外と多い。」などの感想があり、身近なふるさとの自然について、興味・関心が高まった。

連携機関・団体・人物

【海洋生物の採集・説明】さとうみ科学館 平山 良太 さん



さとうみ科学館 平山さん

成果○と課題●

- 海辺の生き物の形態や特徴を細部までじっくり観察し、描画道具を効果的に使用して表現する生徒が増えた。
- 小学校時に作品コンクールに応募し、描画体験をしているので、その経験を活かしたレベルの高い表現の工夫をすることができた。
- 海辺の生き物の採集に時間がかかりすぎ、実物を観察しながらの描画ができなかった。